48 デジタル時代の学校図書館 学校図書館における ICT 活用

東京都 中央大学附属中学校・高等学校

基本データ

所在地	東京都小金井市貫井北町 3−22−1
児童生徒数	1,714 人
教職員数	156 人
蔵書数	約 185,000 冊
年間貸出冊数	約 7,000 冊

テーマ・活動のねらい等

【テーマ】情報活用能力の育成、情報機器の活用

【活動のねらい】

- （1）教材・教具としての図書館資料検索システム（OPAC）の開発
  限られた時間内で求める資料に辿り着くニーズに対応すること。
- （2）学習者用コンピュータ・大型提示装置の導入
  図書館の授業利用増加に伴いコンピュータを1人1台にすること。
  収集した情報の記録・整理・分析・可視化・提示を可能にすること。
- （3）館内の有線 LAN・無線 LAN の敷設
  図書館のコンピュータをインターネット接続を可能とし、コンピュータの台数増加に併せて無線 LAN を館内全エリアに整備すること。
- （4）学習用ツールとしてのネットワーク情報資源の活用
  電子資料についても図書資料と同様に正確で信憑性のある情報を提供し、「学びの質」を高めること。

取組・活動の概要

- 本校の図書館は、独立棟の本館と校舎内の分館から構成されており、中学校と高校の各教員室、教科研究室・準備室、保健室、相談室等にも所蔵資料が排架され、生徒・教職員が利用できる環境にある。
- 従来から教科学習をはじめ、学校行事などの教育課程全般で課題解決型学習や探究活動が重視され、教職員による教材研究等も盛んである。
- 館内を含む校内全体の図書資料の更なる有効活用と、新たな図書館資料としての電子資料の利活用を目途に、図書館内の ICT 環境整備を積極的に行ってきた。

①教材・教具として位置づけた図書館資料検索システム（OPAC）の開発

- カード目録からオンライン目録への移行と共に、同時一斉アクセスに対応でき、かつキーワード検索を重視した OPAC を開発。
- 検索ノイズの除去のため書誌データの整備を学校司書が行い、限られた時間内で求める図書資料を探し出せるようになり、授業での活用が進んだ。
- 書誌データの整備に当たり学校司書は図書資料を読み込み、レファレンス能力が向上した。

図書館ホームページ TOP

中央閲覧席壁面スクリーン

②学習者用コンピュータ・大型提示装置の導入

- 1人1台の端末利用ができるように学習者用コンピュータを配置。
- プロジェクターや吹き抜け壁を利用した壁面スクリーンを導入。

- 各種学習用ツールを導入し、図書館で収集した情報の記録・整理・分析・思考の可視化・提示が全て館内で展開可能となった。

③館内の有線 LAN・無線 LAN の敷設

- 校内ネットワークだけでなくウェブサイトの閲覧が可能となった。
- 無線化により適宜コンピュータの配置を変えることが可能となった。

大きな閲覧机は学習に最適

④学習用ツールとしてのネットワーク情報資源の活用

- 電子書籍の購読や各種の商用・非商用のデータベース導入。

電子書籍が利用できる Chufu 電子図書館のトップページ

取組・活動の工夫や特徴

- 授業における学習センター・情報センターとしての利活用が多いことから、ICT 環境がいつでも安定した稼働状況となるよう司書教諭が中心となり維持をしてきた。
- 不具合発生時には司書教諭や学校司書が直ちに交換ができる学習者用コンピュータ等を複数備えている。
- ICT 機器については、導入業者と保守契約を結び、作業員や交換部品が確保され、不具合発生時にも迅速な復旧が可能となる。
- OPAC や複数のネットワーク情報資源へのアクセス利用が容易となるよう、図書館内に限らず校内ネットワークに接続された全てのコンピュータからいつでも利用が可能な、図書館が提供する情報サービスを一元化したポータルサイトを作成。

取組・活動の成果や今後の展望

- 図書館の学習者用コンピュータと商用データベースが導入された当初、館内で行われる授業は年間延べ 250 時間程度であったが、学習者用コンピュータが増設され授業における１人１台の配置が実現すると共に授業利用が年々増加。
- ここ数年間は年間延べ 800 時間を超え、１時間目から６時間目まで常に授業が展開され、同じ時間に複数クラスの授業が行われることも普通となった。
- 図書館の ICT 環境整備が授業を含めた本校の教育活動を支援し、ひいては本校図書館の活性化につながったと考える。
- 本校生徒は卒業後も大学で商用データベースを日常的に活用していることから、ネットワーク情報資源を含めた情報活用能力の育成がなされたものと判断できる。
- 今後は、既存の教育用 ICT 機器の計画的なリプレイスを行うことで、教材・教具として安定した稼働を提供すると共に、大学同様に統合認証システムやリモートアクセスなどを導入して、校内のみならず、学校外からも図書館が提供するポータルサイトを利用できる環境を構築したい。